

「SUMISYS NEO」phaseⅢの受注活動開始

(目的) 規格型システム建築の「SUMISYS NEO」は、従来の自由設計型システム建築「TREQ」に規格性を持たせ、設計、生産および現場の省力化を図る。一方で、建屋の形状と荷重条件の多様な要望に対し、システム建築として最適な提案が可能となる。

今後、規格型システム建築の「SUMISYS NEO」は、「TIO」、「TREQ」と並ぶ日鉄物産システム建築の主力商品として位置付ける。

(特徴) 「SUMISYS NEO」の開発は、phase I から phaseⅢまでの3段階により、規格型システム建築の領域で適用範囲を拡大してきた。

今回の「SUMISYS NEO」 phaseⅢは最終フェーズであり、コラム柱による両方向ラーメン架構にも対応できる商品とした。

コラム柱の柱脚を半固定とすることで層間変形角を抑制し、基礎は柱脚の反力と地盤条件に合わせ4つの基礎システムからの選定とする。主架構の柱梁接合部には特殊金物を標準化し、主架構の鋼材重量と鉄骨加工度とのバランスの取れた鉄骨システムとなった。

屋根と外装の各システムは、省エネルギー性能を満たすために、二重折板屋根、断熱パネル屋根、断熱角波の断熱仕様の拡充を図った。

(効果) 自由設計型システム建築「TREQ」と比べ10%以上のコストダウンが期待できる。

(採用目標) 2020年10月より、システム建築会員へ「SUMISYS NEO」 phaseⅢの商品発表を行い、受注活動を開始する。2021年4月からは完成形の「SUMISYS NEO」として販売開始、2021年度は50棟の採用を目指す。



「SUMISYS NEO」 phaseⅢの試作試験状況